

2013年9月27日

十和田八甲田地区  
パークボランティア連絡会  
第92号 会報

事務局（発行者） 阿部幸子  
青森市中佃 2-15-5

Tel・Fax 017-741-8068

E-mail [pv.0514@ruby.plala.or.jp](mailto:pv.0514@ruby.plala.or.jp)



撮影：田村正美

厳しいと感じていた残暑もいつの間にか赤とんぼが群れをなし、星空もひととき美しく見える気候になりました。

朝夕の冷え込みも増してきて、これからの八甲田山等の大自然の紅葉も楽しみです。

先日小岳へ登った際も藪漕ぎがなくササが広く刈り払いされて、頂上までのハイマツも適当に刈り払われ気持ちよく歩くことが出来ました。

只、台風18号の後だったので、刈られたササが流され登山道に何カ所にも溜まっていったのと、大岳下山中の登山道の土砂が流されて危険な状態が数カ所あり気がかりでした。

今年の薬師沢の最終ロープ張りを8月22日に急きょ実施しました。呼び掛けに応じてくれた5人の皆さん、お疲れさまでした。



◆◆◆ 活動報告 ◆◆◆

「東北四地区PV合同研修会に参加」

吉崎 明子（十和田市）

8月31日から9月1日にかけて秋田県仙北市田沢プラトールホテルに於いて実施され、当地区から7名が参加しました。

13時30分に開会、今回担当の南八幡平地区「ホシガラスの会」が進行、最初の川口洋治氏講演「カタツムリの話」を興味深く拝聴しました。その後各地区の活動報告があり、それぞれの活躍に対し頭が下がりました。

16時20分から実務研修に入り、担当地区の会長である奥州谷武美氏が講師を務める。「体の不自由な方へのガイド方法」についてホテルロビーでの講義と実際に屋外で2人1組による目の不自由な方を案内することを体験し、体が不自由な方が実感でき、ガイドする際の参考になりました。

その後、囲炉裏のある懇親会場へと移り、くじ引きで席を決め、他地区の方々と夕食を取りながら、皆和気あいあい活動時の楽しみや苦労話で賑わいました。

2日目は楽しみにしていた秋田駒ヶ岳登山でしたが、あいにくの悪天候で中止となり、希望者を対象に「硫黄鉱山跡」の見学をする。下山は定期バスの後に続き「アルパこまくさ」駐車場で解散となりました。担当地区PVの皆さんの一生懸命な心配りと頑張り之心からお礼申し上げます。



「第4回井戸岳植生復元作業」

山本 正教（青森市）

9月4日（水）晴天で絶好の登山日和の中、湿原の高山植物も咲き終わった毛無岱を参加者7名で登る。昨夜まで降り続いた雨で登山道も大分洗掘されていた。登山者も少なく我々だけの八甲田山という感じでした。

調査対象区の補強を終了し昼食をとる。

昼食後は現地解散となり大岳を登った人もおりましたが、PVは毛無岱の木道整備しながら下山し、下毛無岱休憩所下から栈木運び階段に向かって作業する。釘のある分だけだったので残った栈木は上毛無岱休憩所下に保管する。

今日特に感じたのは、登山道が荒れて来ており早急の対策が必要だと思いました。（下毛無岱休憩所下には、まだ沢山の栈木を置いています）



「酸ヶ湯クリーン作戦に参加」

吉沢 収洋（青森市）

9月10日（火）大岳頂上がくつきりと見え、登山口に向かう登山者が羨ましい日でしたが、空気はヒンヤリ秋を感じる天候でした。

9時酸ヶ湯IC前に総勢

26人が集合、PVからは12名の参加でした。

環境省 松山自然保護官

からの挨拶後、酸ヶ湯周辺と睡蓮沼周辺を割り当てられ、その中で更に地獄沼とキャンプ場とに分かれ清掃活動となりました。各方面ともゴミは少なく、紅葉シーズンに向けて幸先の良い環境だと思えます。休憩後、側溝の泥上げや、酸ヶ湯ICからキャンプ場への歩道が雑草に覆われていたので、ナタ、カマ、草刈りバサミ、スコップ等で奮闘する事1時間、きれいになり、歩きやすい歩道に変身。この人数からできる事であって大変な作業でした。可燃ごみ5袋・空き缶1袋・ペットボトル1袋・その他不燃物1袋を回収し、11時に終了しました。参加した皆さんお疲れさまでした。

◆◆◆



◆ 10月の活動予定

「環境省主催自然観察会（鶯六沼巡り）」

★10月5日（土）観察会下見及びPVスキルアップ研修

蔦駐車場9時集合 ※午前中で終了予定  
（講師：自然公園財団 山下氏）

★10月12日（土）観察会9時～12時  
蔦駐車場8時集合 ※小雨決行

◆ 「薬師沢・田代湿原ロープ撤去作業」  
下見参加者の中からスタッフ4名募集

★10月20日（日）※午前中で終了  
①薬師沢・9時 酸ヶ湯IC集合

②田代平・9時 八甲田温泉向え駐車場集合  
申し込み締め切り 10月18日 事務局まで

◆ 「蔦野鳥の森歩道整備」  
★11月7日（木）蔦駐車場午前8時50分集合  
申し込み締め切り 11月5日 事務局まで

◆ 事務局から◆

◎7月18日オオハンゴンソウ駆除作業には  
東島、小原、鳥谷部、山本光、和田、前田、  
吉崎の7名の方に参加していただきました。

◎「ヒナザクラの会」松田会長より「八幡平の  
植物」「里山の植物」各1部を贈呈されました  
ので皆で活用したいと思います。

◎紅葉の時期となり酸ヶ湯ICにも沢山の入館者  
が訪れます。窓口案内の協力 お願い致します。





## 【 みちのく潮風トレイル開通記念ウォークに参加して 】

和田 有平（野辺地町）

環境省主催の下、関係する県及び市町の共催で実施したこのトレイルは、今年5月に「三陸復興国立公園」創設イベントの一環として、北は青森県八戸市蕪島から南は福島県相馬市松川浦までを対象に設定されました。



長距離自然歩道の一部開通箇所の北から四つのコース、「①海辺の高原・たねさし お花畑と天然芝生を楽しむトレイル（八戸コース：7km）」、「②巨木の王国・はしかみ里山・里海を楽しむトレイル（階上コース：7km）」、「③南部もぐりとウニの里・ひろの海道のロマンを巡るトレイル（洋野コース：8km）」、「④史跡と海女ちゃんの故郷・くじ美しい海岸を楽しむトレイル（久慈コース：12km）」で行われ、私は③のコースに参加し、その他当地区 PV からは4名の参加でした。

出発式では環境省政務官、関係県の担当者や洋野町町長等の挨拶があり、その後注意事項などの説明を受け、一班から六班の順に出発しました。

地元出身の班長さんの説明では、先の震災でウニやアワビの栽培漁業施設が津波の被害により壊滅したが、現在はこれらの施設も復旧されて生産が始まっているとのことでした。トレイルの途中、地元の産直販売所で冷たいヨーグルトの「ふるまい」を受け、また NHK の朝ドラに出ていた「種市高校」の潜水実習プールなどの見学では、ドラマの先生役に似た先生の説明の他、種市における南部もぐり起因の話、現在の太陽光メガソーラーの建設など、洋野町は大きく発展しようとしているとの説明がありました。

ゴール地点の階上灯台広場では、既に到着した方々がゴール横断幕の下で出迎えてくれ、最後に到着した私達は政務官や町長等が横一列になってのゴールインでした。

広場では灯台の一般公開も行われ、見学者は灯台の高いところから階上海岸のパノラマを満喫。

最後に係員から渡されたアンケートの記入を終え、ふるまい券、完歩証、ジオパーク紹介カードと缶バッジを頂き、「ふるまい」の昼食を食べながらステージセレモニーが始まり、主催者と来賓の挨拶や写真撮影会、それにクールダウンの「ヨガ」で終了となりました。今回のトレイルウォークでは、一部のコースでしたが素晴らしい体験をし、長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」コースが早期に完成し、多くの方々が利用されることを願っています。



## 【 みちのく潮風トレイル 】

■『みちのく潮風トレイル』とは、東北地方太平洋沿岸地域に整備するトレイルコースのことです。トレイルとは、森林や原野、里山などにある「歩くための道」を指す言葉です。歩くスピードで旅することで、車の旅では見えない風景、歴史、風俗や食文化などの奥深さを知り、体験する機会を提供するものです。

■欧米には、総距離数千キロにもなるロングトレイルがいくつも整備され、世界中から多くの人たちが「歩く旅」を楽しむために訪れています。地元の住民たちもトレイルを歩く人たちをもてなし、支援する独特のトレイル文化が成熟し、標識や施設などの整備や運用システムなども充実しています。



■バックパックを背負って何ヶ月もかけて歩き通す人たちは、季節の移ろいを感じながら、ときに動物たちの姿や痕跡に遭遇したり、鮮やかに色を変えていく植物の芽吹きや開花などを目の当たりにしたりと、さまざまな自然との邂逅があります。それに加えて、地元住民の温かなもてなしを受けたりしながら、人と自然のつながりや人と人とのつながりを感じる機会を得ています。トレイルの利用も、端から端までを一気に踏破するだけでなく、公共交通機関なども利用しながら日と場所を分けてつないでいく分割踏破だったり、一部区間を日帰りや1泊2日程度で散策したりと、多様な楽しみ方で利用されます。時間と体力に余裕のある若者層だけでなく、親子連れや中高年層も楽しめる、幅広い利用も特徴になっています。

■そこには、トレイルを歩き、トレイルを訪れる人との出会いを楽しむ“文化”ができています。そんなトレイルを、東北海岸に沿ってつなげていこうというのが『みちのく潮風トレイル』で、青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までを範囲に整備していきます。コースの中には、地域を代表するすぐれた自然や景観地、人々の暮らしや文化を感じられるような集落など、歩いて興味をそそられる地点を通過想定します。

「具体的には」

- ◆すぐれた自然景観を有する場所（景勝地等）
- ◆人と自然が織りなす風景が見られる場所（里山、里海、棚田等）
- ◆自然の恵みを体感できる場所（市場、漁港等）
- ◆東北の暮らし、文化を体感できる場所（風情ある町並み、史跡、寺社仏閣等）
- ◆津波の痕跡など自然の脅威を実感できる場所（震災の痕跡、津波石等）
- ◆地球活動の遺産を見学できる場所（ジオサイト） …… などを想定していきます。

◆ …… 環境省「みちのく潮風トレイル」HP から …… ◆